令和３年度地域活性化活動助成事業活動概要

地域の達人から学ぼう

周南市立三丘小学校

１　活動の目的

本校の所在地である三丘地区は、学校田･畑、糸あやつり人形浄瑠璃、孔子廟のある徳修館、地元のなす畑など、児童の教育環境にとても恵まれている。これまでも、毎年地域の方をその道の達人として講師に招き、ふるさと体験学習を継続している。

本年度も、講師（達人）を三丘地区から招き、より地域への理解を深めるとともに地域に誇りを持った児童を育成していくことで、地域のさらなる活性化を目指していく。

２　活動内容

（１）地域の田畑を利用した農業体験

本校の近くに、下郷農業構造改善組合（以下、「下郷法人」と呼ぶ）が管理する田畑がある。その田畑を利用して、１・２年生はサツマイモの苗植えと芋掘りを、全校では田植えと稲刈りを実施し、農業体験による地域の活性化を図った。

①６月２３日（水）【サツマイモの苗植え】

１・２年生によるサツマイモの苗植えと、全校児童による餅米の田植えを実施した。実際に畑に行くと、サツマイモを植える畑は広く、下郷法人の方の協力で畝が作ってあった。児童は、下郷法人の方から苗の植え方の説明を受け、間隔を空けて丁寧に植えていた。

②６月２８日（月）【田植え】

田植えを行う水田は、本校体育館の北側 50ｍ程の場所にある。児童は、汚れてもよい服装に着替え、学校を出発した。下郷法人の方が児童を笑顔で迎え入れ、早速植え方の丁寧な説明があった。２年生以上は、昨年度も経験しており、特に高学年は手際よく苗を植えていった。１年生は初めてであり、下郷法人の方の支援を受けながら丁寧に植えていた。どの児童も、どろんこになりながらも、笑顔で田植えの活動を終えることができた。今回植えた苗は餅米である。例年は稲刈りの後、餅つきをする事になっているが、本年度もコロナの影響があり、中止することとなった。

③１０月２７日（水）【稲刈り】

本年度、児童が植えた稲は順調に育ち品質も上々であった。下郷法人の方からの稲刈りの説明が終わると、次々に目の前の稲を刈っていった。鎌の使い方も手慣れたもので、６年生はあっという間に自分の持ち場の苗を刈り終わった。丁寧に刈り取った稲は、土の上に置いて並べ、下学年の児童は、稲束を脱穀機の前まで持って行った。そこでは、下郷法人の方が児童から受け取った稲を脱穀機にかけ、次々に脱穀していった。

全ての脱穀が終わると、２０cm 程度に裁断されたわらを全児童が楽しく蒔き広げていった。全体に行き渡ったわらは、この後、水田の肥料となる。稲作りでは、わらも無駄にしないよう、工夫をしていることに児童は、感心していた。

後日、下郷連合の方から、精米した餅米をいただき、全校で分けて持ち帰った。

⑤１１月１０日（火）【イモ掘り】

６月に植えたサツマイモが大きくなり、１・２年生によるイモ掘りを行った。例年よりも少なめということであったが、サツマイモが収穫できた。イモ畑のあちこちから児童の歓喜の声が聞かれ、一輪車２杯分のイモを学校まで持ち帰ってきた。収穫したイモは児童で分けて持ち帰った。

（２）学校の畑を利用した、一連のなす栽培の体験

①5月6日（木）【なす植え】

例年、地元のなす栽培農家の方から直接なすの栽培について指導を受け、植え付けから収穫までを総合的な学習の時間を利用して体験している。なすは連作障害があるので、本年度は、学級園の土の入れ替えを４月に実施した。

②6月8日（火）【なす支柱立て】

なすは支柱に固定することで、一株からたくさん収穫できるので、上に上に繁るように支柱で固定して栽培する。栽培農家の方から支柱の立て方を教わり、苦労して完成させた。

③9月8日（火）【三丘なすが学校給食に使用】

学校にグットニュースが‥‥子ども達が栽培したなすが地産地消メニューとして学校給食に選ばれた。子ども達は、丹精こめて育てたなすを収穫し、学校給食センターに搬入した。

④１０月４日（月）【三丘なすでジャム作り】

栽培農家の方が食生活推進協議会の一員でもあるので、例年、収穫したなすをジャムにする体験学習に取り組んでいる。なすにはいろいろな食べ方があり、子どもの大好きなジャムに変身することに子どもは感心していた。

⑤１０月１６日（土）【バザーでなす販売】

休日参観日のみつおっ子フェスタで、子ども達はなす栽培についての体験学習発表をした後、参観の保護者になすを販売した。小売価格より格安なので、あっという間に完売し、子ども達は消費者教育も学ぶ機会を得た。

⑥１０月１６日（土）【なす名人ありがとうの会】

お世話になった、なす作りの達人４名を学校にお招きして、子ども達が感謝の気持ち伝える会を企画した。今後、どうしたら形がよく、さらにおいしいなすができるか、熱心に達人に質する子どももいた。最後の記念撮影では達人も子ども達もみんな素敵な笑顔を見せていた。

（３）麦刈り、脱穀、小麦粉挽き、ピザ作り、麦まきの一連の体験活動

①6月２日（水）【麦刈り】

本校学校運営協議会の会長さんは、地元で書店を営むかたわら、独学でパン作りを研究し、今では自ら小麦を栽培しパンを作り販売している。会長の提案で、子ども達が収穫した麦から、生活科の学習を発展させようとの投げかけに、本校低学年の教職員が賛同して、協働で学習を進めている。

②6月２日（水）【小麦脱穀】

子どもが、刈り取った小麦はその場ですぐに脱穀され、小麦の粒が竹かごにうつされた。子ども達は、今後予定されている餅米の稲刈りでも同様の体験をするので、小麦と米の収穫時期の違いや色や形の違い等を学ぶためのよい体験となった。がんばって刈った割に小麦の量が少なく、これでピザがたくさんできるか心配する子どももいた。

③7月１４日（水）【小麦粉製粉しピザ作り】

子どもが待ちに待ったピザ作り。小麦粉から生地をつくりそれを平たい円形にし、たくさんのピザの具をトッピングして会長夫妻に焼いてもらった。みんな、おなかいっぱいになった。

③１１月９日（火）【麦まき】

子ども達は、来年もおいしいピザ作りを夢見て丹念に麦まきをした。この小さな小さな麦の一粒が、おいしいおいしいパンやピザになることを理解した三丘小の１・２年生は、食と農業生産の基本的な関連について体験を通して学んだことになる。きっと、食品ロスをなくす人に成長するだろう。

３　成果と今後の課題

〇成果

新型コロナウイルス感染症によって学校行事が中止や規模の縮小となる中、ふるさと学習の一環として児童と地域の関わりをなんとか継続したいと考えていた。幸い、地域の方の理解を得ることができ、どの活動も３密を避けながら実施することができた。

農業体験での下郷法人の方は、児童への関わりが優しく、丁寧に教える姿がたくさん見られた。ちょうど児童が孫の世代となるので、温かい目で見てもらえたことがとてもよかった。近年は、祖父母と暮らす世帯が少なくなり、またコロナ禍ということもあって、児童にとっても下郷法人の方とのふれ合いは貴重な体験となった。加えて、地域で栽培されるイモや稲についても体験を通して多くのことを学ぶことができた。

なすの栽培では、土作りから苗植え、水やり、支柱立て、ジャム作り、収穫と一連の活動のすべてに児童が関わるので、なすの成長を観察しながら、そこに関わる人・作業・工夫･収穫の喜び・販売と総合的な視点での学びが達成できた。また、地域のなす作りの達人とのふれ合いを通して、ひとつのことをやり遂げる努力や苦労を達人の働く姿から学ぶことができ、尊敬と感謝の気持ちがよりいっそう深まった。

小麦づくりでは小麦からパンやピザができる過程を低学年児童が実際に体験したことで、農産物を加工して身近な食品ができることを学ぶきっかけとなった。低学年の児童に取って、作物の栽培と身近な食を結びつけた体験は楽しい取り組みが盛りだくさんで、食べ物を大切にする食育や消費者教育と関連づけられて、大変有意義であった。

児童はそれぞれの達人に対して精一杯感謝の気持ちを手紙に書いて伝えた。何か教えていただいたときには、感謝の気持ちをもってお礼を伝えるという大切な心を、これらの活動を通して学ぶことができた。また、お礼の手紙を受け取ることを楽しみにしているという声も地域の方から聞かれ、児童の手紙が自分たちの活動の励みになっているとのことである。お礼の手紙を通して、しっかりと地域の方と心がつながることができた。

〇課題

ボランティアとは言え、作物を育てるための肥料や苗の代金だけでなく、田畑の整備など、多くの手間がかかっている。また体験をする際は、材料費や講師への謝金が必要となるが、経費の捻出は難しい。今回のように、活動に対して保障できる予算があるのはとてもありがたいことである。前述の成果を本年度以降にも継続して残すことで、児童の地域への愛着が育ち、ふるさとを大切にする心情が醸成されると考える。今後も、活動が継続できるよう様々な機関に働きかけていきたい。